

2025 年度教務自己点検・評価票（教務委員会用）

点検項目(1) 学生の学修成果

項目 番号	点検項目	点検用資料・ データ（注1）	点検年月日	点検結果の概要（注2）	点検結果をふまえた 今後の取り組み（注3）
①	各学科の学生の修得単位数の分布	点検項目(1) 学生の学修成果①②_修得単位_GPA.pdf 20260304_自己評価 教務課確認用 DB - Power BI	2026/6/16	BI(Business Intelligence)ツールを利用して、学生の修得単位状況を点検しています。多くの学生が順調に単位を取得しています。	結果を FD で共有し、カリキュラム運営や改善に活かしていきます。
②	各学科の学生の GPA の分布	点検項目(1) 学生の学修成果①②_修得単位_GPA.pdf 20260304_自己評価 教務課確認用 DB - Power BI	2026/6/16	BI(Business Intelligence)ツールを利用して、学生の GPA を点検しています。多くの学生が標準的な GPA に達しています。	結果を FD で共有し、カリキュラム運営や改善に活かしていきます。
③	各学科の学生の学修度の分布	点検項目(1) 学生の学修成果③_学修度.pdf 20260304_自己評価 教務課確認用 DB - Power BI	2026/6/16	全学年対象に年 1 回アンケートを実施し、BI(Business Intelligence)ツールを利用して、学生の学修度を点検しています。多くの学生が学修は身についていると回答しています。	結果を FD で共有し、カリキュラム運営や改善に活かしていきます。

項目 番号	点検項目	点検用資料・ データ（注１）	点検年月日	点検結果の概要（注２）	点検結果をふまえた 今後の取り組み（注３）
④	各学科の学生の DP 達成度の分布	点検項目(1) 学生の学修成果④_DP 達成度.pdf 20260304_自己評価 教務課確認用 DB - Power BI	2026/6/16	BI(Business Intelligence)ツールを利用して、学生の DP 達成度を把握し、カリキュラムと DP 達成度の適切なバランスを点検しています。	結果を FD で共有し、カリキュラム運営や改善に活かしていきます。
⑤	学科科目以外の科目のうち、習熟度等によるクラス編成を行う科目のクラスごとの成績分布等	点検項目(1) 学生の学修成果⑤_学科以外習熟度成績分布.pdf	2026/6/16	習熟度等のクラス編成によって、学生の理解度を向上させつつ、成績評価が科目で絶対評価となるよう授業を運営しています。結果上位クラスでは生成優良者が多くなる狙い通りの運営となっています。	結果を FD で共有し、カリキュラム運営や改善に活かしていきます。 AI・データサイエンス入門 1・2 とスタディスキルズ a・B では、下位クラスで極端に単位取得率が低いクラスもあり、改善が必要と思われます。
⑥	副専攻修了者数	点検項目(1) 学生の学修成果⑥_副専攻修了者数.pdf	2026/6/16	希望者も修了者の非常に少ない結果となっています。当初目標値も設定しておらず、成否の評価が困難な状況です。	目標値の設定、時間割運営での改善、カリキュラム変更に併せた制度の見直し等検討していきます。
⑦	AI/データサイエンスプログラム修了者数	点検項目(1) 学生の学修成果⑦_AI_DS 修了者数.pdf	2026/6/16	カリキュラムの変更や学年進行によって、修了者は順調に増加しています。	結果を FD で共有し、カリキュラム運営や改善に活かしていきます。

項目 番号	点検項目	点検用資料・ データ（注１）	点検年月日	点検結果の概要（注２）	点検結果をふまえた 今後の取り組み（注３）
⑧	後期教養科目群の履修者数・単位 取得者数	点検項目(1) 学生 の学修成果⑧_後 期教養科目.pdf	2026/6/16	2024 年度から新制度となり、2025 年 度の 2 回生から初めて開講すること もあり、履修者は非常に少ない結果と なっています。	今後の学年進行に併せて状況を 点検し、必要に応じてカリキュラ ム運営を見直す予定です。
⑨	キャリア科目の履修者数・単位取 得者数	点検項目(1) 学 生の学修成果 ⑨_キャリア教 育科目.pdf	2026/6/16	科目により履修者のばらつき見られ ます。単取得者数は適切な状態です。	2024 年度からのカリキュラム変 更に併せて履修者が少なかった 科目の一部は閉じる予定となっ ています。
⑩	司書課程の履修者数と資格取得条 件充足者数	点検項目(1) 学 生の学修成果 ⑩⑪⑫_司書_司 書教諭_博物 館 .pdf	2026/6/16	希望者も修了者の非常に少ない結果 となっています。当初目標値も設定し ておらず、成否の評価が困難な状況で す。	目標値の設定、時間割運営での改 善、カリキュラム変更に併せた制 度の見直し等検討していきます。
⑪	司書教諭課程の履修者数と資格取 得条件充足者数	点検項目(1) 学 生の学修成果 ⑩⑪⑫_司書_司 書教諭_博物 館 .pdf	2026/6/16	希望者も修了者の非常に少ない結果 となっています。当初目標値も設定し ておらず、成否の評価が困難な状況で す。	目標値の設定、時間割運営での改 善、カリキュラム変更に併せた制 度の見直し等検討していきます。
⑫	博物館学芸員課程の履修者数と資 格取得条件充足者数	点検項目(1) 学 生の学修成果 ⑩⑪⑫_司書_司 書教諭_博物 館 .pdf	2026/6/16	希望者も修了者の非常に少ない結果 となっています。当初目標値も設定し ておらず、成否の評価が困難な状況で す。	目標値の設定、時間割運営での改 善、カリキュラム変更に併せた制 度の見直し等検討していきます。

点検項目（2）授業の内容や方法

項目 番号	点検項目	点検用資料・ データ（注1）	点検年月日	点検結果の概要（注2）	点検結果をふまえた今後の取り組み（注3）
①	学科科目の履修者数	点検項目(2) 授業 の 内 容 や 方 法 ①②_ 履 修 者 数.pdf	2026/6/16	履修者数が 200 名以上と多すぎる科目が多数発生し、2024 年度よりも若干増加しています。	毎年度、全授業が受講しやすい履修者数となることを目標に時間割編成を見直しています。
②	学科科目以外の科目の履修者数	点検項目(2) 授業 の 内 容 や 方 法 ①②_ 履 修 者 数.pdf	2026/6/16	一部科目で履修が多すぎる科目が発生しています。	毎年度、全授業が受講しやすい履修者数となることを目標に時間割編成を見直しています。
③	授業ルーブリック記載科目比率		2026/6/16	シラバスへ授業ルーブリックを記載する仕組みとし、科目比率向上を目指しています。2025 年度の記載率 62.0%となっています。	FD 等を通じて授業ルーブリック記載科目比率向上を目指します。
④	補講実施率	点検項目(2) 授業 の 内 容 や 方 法④_ 補習実施率.pdf	2026/6/16	休講に対する補講実施率の最終目標は 100%ですが、前期、後期ともに実施率 80%を超え、特に前期は 11%増となっています。	休講、補講の受付方法を簡素するなど、実施率の向上を目的とした施策を進めていきます。

点検項目(3) 学生の意見

→教務委員会が点検主体である項目はなし

点検項目(4) 外部評価

項目 番号	点検項目	外部評価報告書と回答 書のリンク先	点検年月日 (注4)	外部評価の指摘事項に対応した今後の取り組み(注5)
①	外部評価委嘱先による報告書に 記された教務関連の指摘事項	点検項目(4) 外部評価 ④.pdf	2026/6/16	AI・データサイエンス関連教育体制の整備 履修者数が目標未達となり最上位認定に至らなかったが、2025年度より履修条件を見直し、履修者数は大幅に増加した。今後は文部科学省の認定基準を踏まえたカリキュラム改善を進め、履修促進と学修成果の定着を図ります。

★注

- 1：別添資料の場合は資料番号，オンラインで参照できる資料の場合はそのリンク先を示す。
- 2：目標値との比較，良好な点や改善した点，悪化した点や改善が求められる点等を記す。具体的な数値は必ずしも示さなくともよい。
- 3：改善が必要な項目について，改善のために具体的な取り組みを行う計画を定めた場合には，その要点を記す。「検討中」や「とくになし」も可。
- 4：外部評価に対する回答を教務委員会で審議・決定した日を点検年月日とする。
- 5：回答書に記した今後の取り組みの要点を記す。

2025 年度教務自己点検・評価票（教職課程委員会用）

点検項目(1) 学生の学修成果

項目 番号	点検項目	点検用資料・ データ（注1）	点検年月日	点検結果の概要（注2）	点検結果をふまえた 今後の取り組み（注3）
①	教職課程の履修者数・免許 取得者数・比率	別紙_1_学年別希 望資格登録者数 _2025 後期時点 別紙_2_教員免許 状取得状況につい て	2026 年 4 月 28 日	◆ 2025 年度後期時点の教員免許資格希望者数は延 178 人，実人数は 131 人であった。1，2 年次生のみが対象となる中学校免許（英語または社会）を希望する者は合計 23 人であった。 ◆ 2025 年度後期時点の 4 年次生の教員免許資格希望者数は実人数で 18 人だが，そのうち免許を取得したのは 9 人で，開きがある。 ◆ 2025 年度の免許取得者数は 9 人で，2024 年度（7 人）より増えたが，2023 年度（11 人）より少ない。 ◆ 免許取得者のうち教員として就職した学生（非常勤含む）は 4 人，その免許取得者に占める割合は 44%で，過去 3 年間で最多となった。ただし例年は数名いた大学院進学者は 0 人であった。	◆ 免許資格希望者数と，実際に免許取得者数に大きな開きがある。免許取得を妨げる障害がないか，検討する必要がある。 ◆ 2020 年度～22 年度卒業生では 0 であった教員としての就職者が，その後 3 年間毎年数名出ている。この結果について，何らかの取り組みが功を奏したのか，検証を行い，今後の教職課程の内容等に反映させる。 ◆ 本学の教職課程の成果をより的確に測るには，大学院進学者のその後の進路の把握も行う必要がある。

点検項目(2) 授業の内容や方法

→教職課程委員会が点検主体である項目はなし.

点検項目(3) 学生の意見

→教職課程委員会が点検主体である項目はなし.

点検項目(4) 外部評価

→教職課程委員会が点検主体である項目はなし.

★注

- 1：別添資料の場合は資料番号，オンラインで参照できる資料の場合はそのリンク先を示してください.
- 2：目標値との比較，良好な点や改善した点，悪化した点や改善が求められる点等を記してください．具体的な数値は必ずしも示す必要がありません.
- 3：改善が必要な項目について，改善のために具体的な取り組みを行う計画を定めた場合には，その要点を記してください．「検討中」や「とくになし」も可とします.

2025 年度教務自己点検・評価票（大学教育センター運営委員会用）

点検項目(1) 学生の学修成果

→大学教育センター運営委員会が点検主体である項目はなし.

点検項目（2）授業の内容や方法

項目 番号	点検項目	点検用資料・ データ（注１）	点検年月日	点検結果の概要（注２）	点検結果をふまえた 今後の取り組み（注３）
⑤	授業外学習 a) 授業外学習時間の分布 b) 授業外学習促進の取り組み とその効果 (注４)	別紙_1_2025_後期授業 アンケート 別紙_22025_授業方法現 状調査	2026 年 3 月 19 日	a) 1 日あたり 0 分～15 分の回答が 65%に達し、予習・ 復習や課題がほぼ行われていない。 b) ①実施状況：回答した教員の 9 割以上が授業外学習を 促進する取り組みを行っている。具体的には「成績に反 映される課題の提示」「テスト対策の提示」など。②教 育的效果：「成績に反映される課題の提示（81.2%）」に 明確な効果を感じている教員が多い。	極一部の学生がサボっているのではな く、「0 分～15 分」がボリュームゾーン であるという、組織的な学習習慣欠如の 課題として捉える必要がある。また、教 員アンケートでは「課題を出している」 に多くの回答が集まっているが、学生の 自律的な実行に結びついていないことを 示唆している。
⑥	アクティブラーニング a) 実施科目数・種類 b) 効果 (注５)	別紙_3_2025_シラバス 集計(アクティブラーニ ング) 別紙_2_2025_授業方法 現状調査	2026 年 3 月 19 日	a) アクティブラーニング実施授業：1,456 件／全授業 2,259 件、63. %。種類（多い順に掲載）：グループワー ク、プレゼンテーション、ディスカッション・ディベ ート、実習・フィールドワーク、PBL（課題解決型学習）、 反転授業。 b) ①教育的効果：「学生の関心・意欲の向上」に効果が あったが最も高く、次いで「授業内容の理解度の向上」 が挙げられている。	意欲向上への効果は確認されているが、 評価仕組みの確立が課題である。受動的 な学生への動機付けに関する具体的な工 夫事例を共有し、AL の実質化を図る必 要がある。
⑦	学期途中の学生の学習進捗状 況や理解度・達成度の確認とそ の学生へのフィードバック a) 実施科目数・種類 b) 効果 (注６)	別紙_2_2025_授業方法 現状調査	2026 年 3 月 19 日	a) 回答者 159 人のうち 144 人がフィードバックを実施 （実施率 90.5%）。実施方法は、提出物（課題等）への コメント、小テストや定期試験等の解説・講評が主であ り、書面や口頭での丁寧な対応が中心となっている。 b) 教育的効果：学生の学習意欲の向上や学生の疑問解消 に寄与している。	フィードバックが学生の「わからない」 を解消し、意欲を高める重要な要素であ ることは明らかである。効果的なフィー ドバック事例の学内共有を進め、持続可 能な指導体制を構築していく必要があ る。

点検項目(3) 学生の意見

項目 番号	点検項目	点検用資料・ データ（注１）	点検年月日	点検結果の概要（注２）	点検結果をふまえた 今後の取り組み（注３）
①	授業アンケート回答率	37.1% N=37,680 ※昨年比-3.8pt	2026年3月19日	1.延べ回答率 37.1%という数字は、学生が全ての履修科目に対して回答していないことを示しているに過ぎない。実人数ベースで見れば、1年生ではほぼ全ての学生が、3年生でも半数程度の学生が何らかの授業に対してフィードバックを行っている。 2.本アンケート結果は、一部の学生による極端な評価の集積ではなく、学内の広範な学生層からの意見を吸い上げたものであり、全学的な教育改善の指針とするに足る十分な代表性を有していると推察される。 3.一方で延べ回答率が低下している要因として、「回答科目の取捨選択（関心の高い科目や不満のある科目に絞った回答）」、あるいはアンケート実施期間における学生の負担増（アンケート疲れ）が推測される。	1.「全ての授業に義務的に答える」ことの心理的ハードルを考慮し、回答がどのように教育改善（シラバス変更や設備改修など）に結実したかを学生へフィードバックするフィードバックのフィードバックを強化し、回答の意義を再提示する。 2.回答率の低下傾向を食い止めるため、教学 IR の視点から他のアンケートを含めて実施タイミングの最適化を行い、学生が「回答しやすい・回答したい」と感じるプラットフォームへの改修を検討する。

点検項目(4) 外部評価

→各学部自己評価実施委員会が点検主体となる項目はなし。

★注

- 1：別添資料の場合は資料番号，オンラインで参照できる資料の場合はそのリンク先を示してください。
- 2：目標値との比較，良好な点や改善した点，悪化した点や改善が求められる点等を記してください。具体的な数値は必ずしも示す必要がありません。
- 3：改善が必要な項目について，改善のために具体的な取り組みを行う計画を定めた場合には，その要点を記してください。「検討中」や「とくになし」も可

とします。

4：「授業外学習時間の分布」は学生アンケート結果から、「授業外学習促進の取り組みとその効果」は教員アンケートの結果を点検用資料としてください。

5：「実施科目数と種類」はシラバスと教員アンケートの結果を、効果については教員アンケートの結果を点検用資料としてください。

6：いずれも教員向けアンケート結果を点検用資料としてください。

2025 年度教務自己点検・評価票（経済学部自己評価実施委員会）

点検項目(1) 学生の学修成果

項目 番号	点検項目	点検用資料・ データ（注1）	点検年月日	点検結果の概要（注2）	点検結果をふまえた 今後の取り組み（注3）
①	各学科の学生の修得単位数の分布	教務課「点検項目 (1) 学生の学修 成果①～④」	2026 年 3 月 17 日	2025 年度のデータから、過少単位者、さらに+α 対象者まで含めた各割合を見ると、2025 年度入学生（1 回生）は 10.6%、23.0%、2024 年度入学生（2 回生）は 14.5%、24.4%、2023 年度入学生（3 回生）は 12.5%、18.9%となっている。 これによると、1 回生に比べて 2 回生は悪化し、3 回生になると改善している。修学に対して意識や姿勢を改め、学修の軌道に乗った学生が含まれることもあるが、それ以上にこの間、当該学生の除籍・退学が進んだことも基因していると考えられる。 なお、提供されたデータと大学で定められている過少単位者、+α 単位者の範囲が僅かにずれているが、傾向自体は捉えることができる。	1 回生で+α までの割合が全体の 1/4 近くを占めることから、学修の軌道に乗ることができるように、入学前教育まで遡って指導を強化していく必要がある。また、どの段階・科目の履修から躓きが出てくるのかについてさらなる分析を進め、乗り越えることができるように対応策を検討していく。 2 回生になると、1 回生までの手厚い支援や指導が受けられなくなることで、専門学修が進んでいくなどにより、単位取得のハードルが上がる。その結果、離学率も高まる学年となることから、現在設置されている経済学特講 H の一層の充実を図るとともに、1 回生までに学修姿勢も含めた基礎力のさらなる涵養とともに、単位修得を進めることかできるようにするため、必要な対応策を検討していく。

②	各学科の学生の GPA の分布	教務課「点検項目 (1) 学生の学修成果①～④」	2026 年 3 月 17 日	2025 年度のデータをから、学年別に GPA3.0 以上、2.0～3.0、2.0 未満の各割合を見ると、2025 年度入学生（1 回生）は 19.7%、39.0%、41.3%、2024 年度入学生（2 回生）は 15.8%、34.0%、50.2%、2023 年度入学生（3 回生）は 12.4%、37.6%、50.0%となっている。学年が進むにつれて、全体の GPA の低下が見られるが、専門学修が進むことが基因していると考えられる。また、GPA の目標値は 3.0 と設定されているが、各学年とも 10% 台に留まっており、目標と実態とは大きく乖離している。	GPA の目標値 3.0 と実態との乖離、2.0 未満が特に 2・3 回生になると半数となっていることから、①で取り上げた単位修得に向けた対応の強化を図った上で、学修の定着につながる教育内容・方法を模索し実施していくことにより、成績評価の向上につなげていく。
③	各学科の学生の学修度の分布	教務課「点検項目 (1) 学生の学修成果①～④」	2026 年 3 月 17 日	2025 年度のデータから、経済学部 DP に対応する科目の単位をどれだけ修得できているかを表す指標である学修度について、平均値で DP1～7 を見比べると、DP6「他者の立場と多様性を理解し、他者と協調・協力することができる」が他の DP に比べて特に低い。	DP6 は、いわゆる「態度・志向性」について表した項目であり、他の DP に比べて対応している学科科目数が少ないことも基因していると考えられる。そこで、新カリキュラムの検討に当たっては、「態度・志向性」を涵養することができる科目数を増やすことができるように検討していく。それに対応して教育内容・方法を開発することができるよう、教育力量の向上に取り組む。

④	各学科の学生の DP 達成度（学生自己評価）の分布	教務課「点検項目（1）学生の学修成果①～④」	2026 年 3 月 17 日	2025 年度のデータから、知識・スキル・能力の獲得状況に関する自己評価では、おおよそどの項目も 2 回生になると「身につけていない」（合計）の割合が高まるが、3 回生以降は低下している。いわゆる「文章力」、「コミュニケーション力」、「汎用的読解力」といった、いわゆる読み書き話すといった基礎力について、2 回生で始まる専門演習での学修において、それらが不足していることを実感しての回答も一定数含まれていると考えられる。	1 回生において、汎用的技能といった基礎力の強化のため、スタディスキルズや大学入門演習等での学修機会が用意されているが、他の基礎科目も含めて、一層の強化につながる教育改善・開発を進めていく。加えて、2 回生も引き続き専門分野を素材としながら、こうした基礎力の涵養を図ることを一層意識した教育に取り組む。
⑤	学科科目のうち習熟度等によるクラス編成を行う科目のクラスごとの成績分布等（注 4）	教育情報課「点検項目（1）学生の学修成果⑤⑥」	2026 年 3 月 17 日	経済学部学科科目のうち「数的表現の基礎」のクラス編成については、入学式後に実施されるプレースメントテストの結果、さらに大学入門演習のクラス分けの状況を踏まえて実施している。全クラス共通テキストを用いるが、上位クラスは、共通テキスト以外に、公務員試験出題内容等に挑戦するなど、より高度な内容に取り組んでいる。一方、下位クラスでは、共通テキストの内容をじっくりと取り組むようにしている。全クラス共通問題で期末試験に取り組むため、2025 年度のデータから成績評価の分布を見ると、上位クラスと下位クラスの評価結果の差が大きく出てくることになる。	当面、このクラス編成、授業実施の方法をベースとして続けているが、全員履修科目となっているが、必修科目でないため、途中で履修をあきらめる学生が出てくる。1 年次後期以降の基礎ミクロ経済学・基礎マクロ経済学の学修等において、数的処理の技能が必要となるため、その必要性をさらに強く訴求し、粘り強く受講するように促していく。また、SA の導入や LMS の利活用促進による受講生へのフォローの強化を図るなどの対応策を検討していく。

⑬	その他各学部・学科の設定 する点検項目（注５）				
---	----------------------------	--	--	--	--

点検項目（２）授業の内容や方法

項目 番号	点検項目	点検用資料・ データ（注１）	点検年月日	点検結果の概要（注２）	点検結果をふまえた 今後の取り組み（注３）
①	学科科目の受講者数（注 ６）	教務課「点検項目 （２）授業の内容 や方法①②」	2026 年 3 月 17 日	経済学部学科科目のうち、受講者数が 150 名を超える科目が 6 科目存在し、 うち専任教員は 4 名、非専任教員は 1 名となっている。6 科目ともパッケー ジ選択科目に含まれており、うち 5 科 目がまちづくりパッケージに対応した ものとなっている。当該パッケージに 対応した専門演習クラスの所属数が他 のパッケージに比べて多いことも基因 していると考えられる。	今後、当該科目の開講数を 2 コマ に増やすことにより、受講者数を 分散させて、1 コマあたりの受講 者数を減少させることが考えら れる。非専任教員はリピート開講 を要請しやすいと思われるが、専 任教員はすでに一定の持つコマ 数となっており、これ以上の開講 コマを増やすことは現実的では ない。引き続きその可能性を模索 するが、現行体制が続く場合、SA の導入や LMS の利活用促進によ る受講生へのフォローの強化を 図るなどの対応策を検討してい く。
⑦	その他各学部・学科の設 定する点検項目（注５）				

点検項目(3) 学生の意見

項目 番号	点検項目	点検用資料・ データ（注1）	点検年月日	点検結果の概要（注2）	点検結果をふまえた 今後の取り組み（注3）
③	その他各学部・学科の 設定する点検項目（注 5）				

点検項目(4) 外部評価

→各学部自己評価実施委員会が点検主体となる項目はなし。

★注

- 1：各項目の点検に必要な資料・データは、基本的には教務課が提供しますが、その他の資料やデータも用いて構いません。
別添資料の場合は資料番号，オンラインで参照できる資料の場合はそのリンク先を示してください。
- 2：目標値との比較，良好な点や改善した点，悪化した点や改善が求められる点等を記してください。具体的な数値は必ずしも示す必要がありません。
- 3：改善が必要な項目について，改善のために具体的な取り組みを行う計画を定めた場合には，その要点を記してください。「検討中」や「とくになし」も可とします。
- 4：該当する学科科目があれば，その科目名も記入してください。該当する学科科目がない場合には，「点検年月日」の欄に「該当科目なし」と記入してください。
- 5：学部もしくは学科独自に点検項目を設定した場合には，それをこの欄に記入してください。点検項目を2つ以上設定した場合には表の行を追加してそれぞれ異なる行に記入してください。
- 6：趣旨は，履修者数が過大であるような科目がないかどうかを点検するということです。

2025 年度教務自己点検・評価票（経営学部自己評価実施委員会用）

点検項目(1) 学生の学修成果

項目 番号	点検項目	点検用資料・ データ（注1）	点検年月日	点検結果の概要（注2）	点検結果をふまえた 今後の取り組み（注3）
①	各学科の学生の修得単位数の分布	20260304_ 教 務 課提供用_自己点 検評価資料	2 0 2 6 年 3 月 1 6 日	修得単位の平均は 59.18 となった。1.2 回生が対象となるため、最多は 41-50 単位以上となっているが、学年別でみ ればそれぞれ想定通りの修得単位分布 になっている。	とくになし。
②	各学科の学生の GPA の分 布	20260304_ 教 務 課提供用_自己点 検評価資料	2 0 2 6 年 3 月 1 6 日	GPA の平均値は 2.24 となった。分布 を見ると、若干 2.0 未満が多く出てい るが、大きな問題はないと思われる。	とくになし。
③	各学科の学生の学修度の 分布	20260304_ 教 務 課提供用_自己点 検評価資料	2 0 2 6 年 3 月 1 6 日	学生の学修度はほぼ万遍なく修得して いる様子が確認できた。	とくになし。
④	各学科の学生の DP 達成 度（学生自己評価）の分布	20260304_ 教 務 課提供用_自己点 検評価資料	2 0 2 6 年 3 月 1 6 日	おおよその項目について、「どちらかと 言えば身についている」以上が多いた め、学生の自己評価としても学習成果 は達成されているものとする。	とくになし。
⑤	学科科目のうち習熟度等 によるクラス編成を行う 科目のクラスごとの成績 分布等（注4）		該当科目なし		
⑬	その他各学部・学科の設定 する点検項目（注5）				

点検項目(2) 授業の内容や方法

項目 番号	点検項目	点検用資料・ データ(注1)	点検年月日	点検結果の概要(注2)	点検結果をふまえた 今後の取り組み(注3)
①	学科科目の受講者数(注6)	20260304_教務課 提供用_自己点検評価資料	2026年3月16日	学科科目のうち、選択必修科目(8科目中6科目が必要)の「スポーツマネジメント入門」、その他に「コーチング論1.2」「企業分析論」「コンテンツビジネス」「スポーツビジネスキャリア」が受講者200名超となった。 全体的に受講者数が過大となった科目は一部に留まるが、こちらの科目においては授業運用上で工夫しつつ対応してもらった。	一部の科目については、クラスの分割などを考慮に入れるとともに、時間割の配置の工夫によって受講者の分散を図る。
⑦	その他各学部・学科の設定する点検項目(注5)				

点検項目(3) 学生の意見

項目 番号	点検項目	点検用資料・ データ(注1)	点検年月日	点検結果の概要(注2)	点検結果をふまえた 今後の取り組み(注3)
③	その他各学部・学科の設定する点検項目(注5)				

点検項目(4) 外部評価

→各学部自己評価実施委員会が点検主体となる項目はなし。

★注

- 1：各項目の点検に必要な資料・データは，基本的には教務課が提供しますが，その他の資料やデータも用いて構いません。
別添資料の場合は資料番号，オンラインで参照できる資料の場合はそのリンク先を示してください。
- 2：目標値との比較，良好な点や改善した点，悪化した点や改善が求められる点等を記してください．具体的な数値は必ずしも示す必要がありません。
- 3：改善が必要な項目について，改善のために具体的な取り組みを行う計画を定めた場合には，その要点を記してください．「検討中」や「とくになし」も可とします。
- 4：該当する学科科目があれば，その科目名も記入してください．該当する学科科目がない場合には，「点検年月日」の欄に「該当科目なし」と記入してください。
- 5：学部もしくは学科独自に点検項目を設定した場合には，それをこの欄に記入してください．点検項目を2つ以上設定した場合には表の行を追加してそれぞれ異なる行に記入してください。
- 6：趣旨は，履修者数が過大であるような科目がないかどうかを点検するということです。

2025 年度教務自己点検・評価票（流通学部自己評価実施委員会）

点検項目(1) 学生の学修成果

項目 番号	点検項目	点検用資料・ データ（注1）	点検年月日	点検結果の概要（注2）	点検結果をふまえた 今後の取り組み（注3）
①	各学科の学生の修得単位数の分布	20260304_ 教 務 課提供用_自己点 検評価資料	2 0 2 6 年 3 月 1 6 日	修得単位の平均は115.35となった。3.4 回生が対象となるため、110 単位以上 で全体の 70%以上を占め、グラフも単 位数の多い層から厚い分布となっている。	とくになし。
②	各学科の学生の GPA の分 布	20260304_ 教 務 課提供用_自己点 検評価資料	2 0 2 6 年 3 月 1 6 日	GPA の平均値は 2. 18 となった。分布 を見ると、若干 2.0 未満が多く出ているが、大きな問題はないものと思われる。	とくになし。
③	各学科の学生の学修度の 分布	20260304_ 教 務 課提供用_自己点 検評価資料	2 0 2 6 年 3 月 1 6 日	学生の学修度は全体的に高くなっている。流通 DP5 のみ若干低くなっているが、許容範囲内だと考える。	とくになし。
④	各学科の学生の DP 達成 度（学生自己評価）の分布	20260304_ 教 務 課提供用_自己点 検評価資料	2 0 2 6 年 3 月 1 6 日	おおよその項目について、「どちらかと言え ば身についている」以上が多いため、学 生の自己評価としても学習成果は達成 されているものとする。	とくになし。
⑤	学科科目のうち習熟度等 によるクラス編成を行う 科目のクラスごとの成績 分布等（注4）				
⑬	その他各学部・学科の設定				

	する点検項目（注５）				
--	------------	--	--	--	--

点検項目（２）授業の内容や方法

項目 番号	点検項目	点検用資料・ データ（注１）	点検年月日	点検結果の概要（注２）	点検結果をふまえた 今後の取り組み（注３）
①	学科科目の受講者数（注 ６）	点検項目（２）授 業の内容や方法 ①②	２０２６年３月１６ 日	学科科目については３．４年次生のみと いうこともあり、受講者数が適正人数 を大幅に超えた科目は少なく、「コー チング論 １．２」「コンテンツビジネス」 「スポーツマネジメント入門」「企業 分析論」となった。	時間割りの配置を検討し、可能 な範囲で受講者の分散を図るこ ととする。
⑦	その他各学部・学科の設 定する点検項目（注５）				

点検項目（３）学生の意見

項目 番号	点検項目	点検用資料・ データ（注１）	点検年月日	点検結果の概要（注２）	点検結果をふまえた 今後の取り組み（注３）
③	その他各学部・学科の 設定する点検項目（注 ５）				

点検項目（４）外部評価

→各学部自己評価実施委員会が点検主体となる項目はなし。

★注

１：各項目の点検に必要な資料・データは、基本的には教務課が提供しますが、その他の資料やデータも用いて構いません。

別添資料の場合は資料番号，オンラインで参照できる資料の場合はそのリンク先を示してください。

2：目標値との比較，良好な点や改善した点，悪化した点や改善が求められる点等を記してください。具体的な数値は必ずしも示す必要がありません。

3：改善が必要な項目について，改善のために具体的な取り組みを行う計画を定めた場合には，その要点を記してください。「検討中」や「とくになし」も可とします。

4：該当する学科科目があれば，その科目名も記入してください。該当する学科科目がない場合には，「点検年月日」の欄に「該当科目なし」と記入してください。

5：学部もしくは学科独自に点検項目を設定した場合には，それをこの欄に記入してください。点検項目を2つ以上設定した場合には表の行を追加してそれぞれ異なる行に記入してください。

6：趣旨は，履修者数が過大であるような科目がないかどうかを点検するということです。

2025 年度教務自己点検・評価票（総合情報学部自己評価実施委員会用）

点検項目(1) 学生の学修成果

項目 番号	点検項目	点検用資料・ データ（注1）	点検年月日	点検結果の概要（注2）	点検結果をふまえた 今後の取り組み（注3）
①	各学科の学生の修得単位数の分布	学生の学習成果 ①～④ 単位数 GPA	2026/3/10	大半の学生が 41 単位以上（1 年次）、81 単位以上（2 年次）を取得している一方で、過少単位者が一定数いる。	過少単位者の早期発見と、ゼミや学生相談室・保健室と連携しての対策を進める。
②	各学科の学生の GPA の分布	学生の学習成果 ①～④ 単位数 GPA	2026/3/10	GPA が 2 未満の学生は全体の 3 割ほどを占めているが、必ずしも過少単位者ではない。	GPA と単位数はわけて考える。GPA が低くても、過度に問題にする必要はない。
③	各学科の学生の学修度の分布	学生の学習成果 ①～④ 単位数 GPA	2026/3/10	1 年次は偏りがあるが、2 年次になると、すべての DP 対応科目をまんべんなく履修するようになっている。	卒業時まで、どの DP 科目もある程度は履修するように、指導する必要がある。
④	各学科の学生の DP 達成度（学生自己評価）の分布	学生の学習成果 ①～④ 能力自己評価	2026/3/10	どの項目も、6 段階評価の 4（どちらかといえば身についている）以上が大半であるが、例外が英語運用能力で、身についていないと回答する学生が多い	英語能力も必要なので、最新技術も使いながら苦手意識を克服させる必要がある。DP 達成度は 3-4 年次にならないと分からないので引き続き確認する。
⑤	学科科目のうち習熟度等によるクラス編成を行う科目のクラスごとの成績分布等（注4）	学生の学習成果 ⑤⑥	2026/3/10	どの科目も、おおむね上位クラスの方が学生の成績は高い傾向にある。	成績は修学意識に強く関連すると考えられるので、現在のクラス編成は妥当と考えられる。来年度も継続する。
⑬	その他各学部・学科の設定する点検項目（注5）	特になし	特になし	特になし	特になし

点検項目(2) 授業の内容や方法

項目 番号	点検項目	点検用資料・ データ(注1)	点検年月日	点検結果の概要(注2)	点検結果をふまえた 今後の取り組み(注3)
①	学科科目の受講者数(注 6)	授業の内容や方法 ①②	2026/3/10	受講者数 200 名を超える総合情報学 科の学科科目は存在しない	200 名を越えないよう、クラス 配分などを継続する
⑦	その他各学部・学科の設 定する点検項目(注5)	特になし	特になし	特になし	特になし

点検項目(3) 学生の意見

項目 番号	点検項目	点検用資料・ データ(注1)	点検年月日	点検結果の概要(注2)	点検結果をふまえた 今後の取り組み(注3)
③	その他各学部・学科の 設定する点検項目(注 5)	特になし	特になし	特になし	特になし

点検項目(4) 外部評価

→各学部自己評価実施委員会が点検主体となる項目はなし。

★注

- 1：各項目の点検に必要な資料・データは、基本的には教務課が提供しますが、その他の資料やデータも用いて構いません。
別添資料の場合は資料番号、オンラインで参照できる資料の場合はそのリンク先を示してください。
- 2：目標値との比較、良好な点や改善した点、悪化した点や改善が求められる点等を記してください。具体的な数値は必ずしも示す必要がありません。
- 3：改善が必要な項目について、改善のために具体的な取り組みを行う計画を定めた場合には、その要点を記してください。「検討中」や「とくになし」も可
とします。
- 4：該当する学科科目があれば、その科目名も記入してください。該当する学科科目がない場合には、「点検年月日」の欄に「該当科目なし」と記入してくだ
さい。

5：学部もしくは学科独自に点検項目を設定した場合には、それをこの欄に記入してください。点検項目を2つ以上設定した場合には表の行を追加してそれぞれ異なる行に記入してください。

6：趣旨は、履修者数が過大であるような科目がないかどうかを点検するということです。

2025 年度教務自己点検・評価票（経営情報学部自己評価実施委員会）

点検項目(1) 学生の学修成果

項目 番号	点検項目	点検用資料・ データ（注1）	点検年月日	点検結果の概要（注2）	点検結果をふまえた 今後の取り組み（注3）
①	各学科の学生の修得単位数の分布	20260304_ 教 務 課提供用_自己点 検評価資料	2026 年 3 月 16 日	取得単位数の平均値は、1 年次生-、 2 年次生 49.00、3 年次生 108.89、 4 年次生 115.43。 ※ GPA 分布について、学生間のばら つきが一定程度存在していることが認 められる	単位修得が遅れている学生に対 しては、個別面談や履修計画の再 設計を通じて、卒業に必要な単位 の確実な修得を支援する。
②	各学科の学生の GPA の分 布	同上	同上	GPA 全体の平均値は 2.34 3.6 以上 : 7.8% 3.0~3.5: 15.5% 2.5~3.0: 19.6% 2.0~2.5: 25.2% 2.0 未満: 31.7%	GPA の低位層が全体に対して 56%を占めている。この層には、 早期の学修支援やゼミ教員によ るフォローを持続的に促し、学修 意欲の向上と基礎学力の向上を 地道に図るよう尽力する。
③	各学科の学生の学修度の 分布	同上	同上	全く身についていない・身についてい ない項目は、「英語運用力」が該当する。 それ以外の項目では否定的見解は比較 的少数の分布である。批判的思考と論 理的思考というクリティカル思考性の 分野も総じて類似した傾向を示してい る。回答相違や偏りは少数。	実践的な英語使用機会の拡充(プ レゼンテーション、資料作成、デ ィスカッション等)を通じて、「使 える英語力」の育成機会を見直し つつ学修成果の可視化が比較的 取りやすい科目内で実践を模索 し、一部実施する。
④	各学科の学生の DP 達成 度（学生自己評価）の分布	同上	同上	集計表の見方を確認して再度検討。 DP に関連する科目数の違いが分布	

				の違いになっている可能性がある	
⑤	学科科目のうち習熟度等によるクラス編成を行う科目のクラスごとの成績分布等（注４）		同上	３年時以上の配当科目では、習熟別授業は開講していない	
⑬	その他各学部・学科の設定する点検項目（注５）		同上	３年時以上の配当科目では、習熟別授業は開講していない	

点検項目（２）授業の内容や方法

項目番号	点検項目	点検用資料・データ（注１）	点検年月日	点検結果の概要（注２）	点検結果をふまえた今後の取り組み（注３）
①	学科科目の受講者数（注６）		同上	点検の結果、２００名以上の受講者である科目の開講はない	
⑦	その他各学部・学科の設定する点検項目（注５）		同上	毎週開講される専門演習１（３年生）、専門演習２（４年生）担当教員が、適時、学生の成績や出席状況を確認し指導を行うことを確認している。	

点検項目（３）学生の意見

項目番号	点検項目	点検用資料・データ（注１）	点検年月日	点検結果の概要（注２）	点検結果をふまえた今後の取り組み（注３）
③	その他各学部・学科の設定する点検項目（注５）		同上	該当結果・データなし	

点検項目(4) 外部評価

→各学部自己評価実施委員会が点検主体となる項目はなし.

★注

- 1：各項目の点検に必要な資料・データは，基本的には教務課が提供しますが，その他の資料やデータも用いて構いません。
別添資料の場合は資料番号，オンラインで参照できる資料の場合はそのリンク先を示してください。
- 2：目標値との比較，良好な点や改善した点，悪化した点や改善が求められる点等を記してください．具体的な数値は必ずしも示す必要がありません。
- 3：改善が必要な項目について，改善のために具体的な取り組みを行う計画を定めた場合には，その要点を記してください．「検討中」や「とくになし」も可とします．
- 4：該当する学科科目があれば，その科目名も記入してください．該当する学科科目がない場合には，「点検年月日」の欄に「該当科目なし」と記入してください．
- 5：学部もしくは学科独自に点検項目を設定した場合には，それをこの欄に記入してください．点検項目を2つ以上設定した場合には表の行を追加してそれぞれ異なる行に記入してください．
- 6：趣旨は，履修者数が過大であるような科目がないかどうかを点検するということです．

2025 年度教務自己点検・評価票（国際コミュニケーション学科自己評価実施委員会用）

点検項目(1) 学生の学修成果

項目 番号	点検項目	点検用資料・ データ（注1）	点検年月日	点検結果の概要（注2）	点検結果をふまえた 今後の取り組み（注3）
①	各学科の学生の修得単位数の分布	20260304_教務課 提供用_自己点検 評価資料	2026 年 3 月 6 日	取得単位数の平均値は、1 年次生 34.07 単位、2 年次生 67.02、3 年次生 99.10、4 年次生 119.58。国際学部とその他学部では履修制限単位数に差があるとし、国際観光学科との比較のみとしても本学科の取得単位数が低い。	同一集団の推移比較提供されたデータからはできないが、低い取得単位数の背景には欠席や授業放棄があると考えられるので、履修指導の取り組み強化を要する。国際コミュニケーション学科 1,2 年生に語学科目(1 単位)が多いことにも留意し、およびカリキュラムの点検を要する。
②	各学科の学生の GPA の分布	同上	同上	平均値は、1 年次生 2.0 単位、2 年次生 2.01、3 年次生 2.12、4 年次生 2.25。他学科と比較すると、1、2 年次が低め。本学科新カリキュラムの目標値は 2.5、旧カリキュラムは 2.4 のため、目標値に達していない。	3,4 年生は旧カリキュラム生であるので、同一集団の推移比較が必要であるが提供されたデータからは不可。低い GPA の背景には欠席や授業放棄があると考えられるので、履修指導の取り組み強化、およびカリキュラムの点検を要する。
③	各学科の学生の学修度の分布	同上	同上	旧カリキュラム (3、4 年次) DP14（総合的学習経験と総合的思考力）、DP12(倫理観と社会責任)、DP2,3(グローバル、ローカル、パーソナルな領域の知識・理解)の学修度は高いが、DP4(言語運用能力)、DP9(発信能力)、DP10(社会人としての実践力)の学修度が低い。 新カリキュラム(1,2 年次) 1 年次生は DP4（コミュニケーション力）、DP11(自己管理力)、2 年次生は DP4 に加え、DP7(問題解決力)、DP9(多様性理解)項目が高い。DP6(論理的思	新旧カリキュラムの DP が異なるため比較は困難である。 3、4 年次生向けの学科科目は、左欄で高い学修度を示す DP が置かれているものが多いため、当然の結果と言えるが、学科の主目的でもある言語運用能力や、高学年において社会人としての実践力を身につける科目配置を考慮する必要があるかもしれない。 一方、1,2 年次生については、この学年が主として履修する語学科目に置かれた DP が反映され

				考)、DP12 (課題解決、創造的思考力、能動的行動力) は低め。	ている。今後は、累積状況を見て達成度を確認する必要があるだろう。
④	各学科の学生の DP 達成度 (学生自己評価) の分布	同上	同上	各スキルに関する学修成果の結果からは、すべての項目について、身につけている (十分、どちらかといえば、含む) を回答した学生が大多数であった。ただし、低回答率 (特に 4 年次生)、同一集団データの年次推移が不明なこと、質問がやや曖昧なことなど分析において課題がある。	学科で重視する能力が修得できているか、今後、4 年間の推移をみてカリキュラム点検に活かす。
⑤	学科科目のうち習熟度等によるクラス編成を行う科目のクラスごとの成績分布等 (注 4)	点検項目(1) 学生の学修成果⑤⑥	同上	基幹英語 3 科目 (Oral Communication、Grammar、Reading) の相関性がない。Reading 系科目の成績が高い一方 (成績 S・A が多い)、同一集団の Oral 系、Grammar 系科目の成績が低い (成績 C・E)。また同一レベル内の別クラスで分布の形状が不均衡。Intermediate Oral Communication 2 だが、A クラスは S 評価が高く、D クラスは S 評価が 0% であり、C 評価に集中。B・C クラスは他のクラスより不合格率が高い。基幹英語 3 科目の成績評価ポリシーに課題がある可能性。また同一レベル内のばらつきについては、クラスダイナミクスか、教員間の差異があると考えられる。	特に Oral Communication において、クラス間の不合格率の差を是正するため、評価基準を再確認する必要。3 科目の成績の相関分析として、「Reading で A なのに Oral で E」という学生がなぜ発生するのか要検討。特定の技能に課題がある学生への対策かプレイスメントの見直し。同時に、Grammar の難易度再考、Reading の評価厳格化の必要性も検討。
⑬	その他各学部・学科の設定する点検項目 (注 5)	「国際学部導入科目『国際学への招待 2025 (全員履修科目)』FD 報告書」	2025 年 10 月 3 日	学部導入科目「国際学への招待」について、出席状況、単位認定試験と結果における成績分布を検討。事前のノート配布と利用促進、補講対策の効果が一定程度見られたものの、不合格者の割合が比較的高いことが課題として確認された。	次年度、ノート活用方法、授業理解に向けた教員側の取り組みを要する。
		「グローバル・ディスカバリー」総	2025 年 10 月 3 日	学科導入科目「グローバル・ディスカバリー」について、成績評価と単位認	

		括資料		定の結果、授業アンケート結果を共有。 成績分布については 24 年度と大きな 変化はない。	
--	--	-----	--	---	--

点検項目 (2) 授業の内容や方法

項目 番号	点検項目	点検用資料・ データ (注 1)	点検年月日	点検結果の概要 (注 2)	点検結果をふまえた 今後の取り組み (注 3)
①	学科科目の受講者数 (注 6)	点検項目 (2) 授業の内容や方法 ①②	2026 年 3 月 6 日	受講生 200 人以上の授業はない。文化交流史 (アジア) (永田:177 人)、「放送文化論」(大野:112)、「異文化コミュニケーション論」(曹:111)、「対人コミュニケーション心理学」(武藤:107)「自分のこころの心理学」(武藤:99)、「広告文化論」(大野:97)、「観光とホスピタリティの心理学」(武藤:96)、「マスコミュニケーション論」(坪井:91)	200 人を超える授業はないが、引き続き大人数にならないよう注意する。
⑦	その他各学部・学科の設定する点検項目 (注 5)	「国際学部導入科目『国際学への招待 2025 (全員履修科目)』FD 報告書」	2025 年 10 月 3 日	学部導入科目「国際学への招待」について、新入生が国際学部における学びの広がりや各分野の特色について理解を深め、学部教育への関心を高める機会となったことが確認された。授業運営方法として、学生の理解が深まり、成績向上につながるよう提言が行われた。	提言内容をもとに 26 年度の授業改善を試みることとし、2025 年 12 月 23 日に今年度と次年度の主担副担＋教務委員による引継ぎ会を実施し、初回の内容改善、1 回ごとの復習を兼ねた確認テストの実施など、改善に向けた取り組みを試みる。
		「グローバル・ディスカバリー」総括資料	2025 年 10 月 3 日	学科導入科目「グローバル・ディスカバリー」について、教室環境の改善の取り組みが授業アンケートから明らかとなった。	導入科目としての授業内容や構成をさらに整理し、新入生が国際コミュニケーション学科の学びを体系的に理解できるよう改善を進める。

点検項目 (3) 学生の意見

項目 番号	点検項目	点検用資料・ データ (注 1)	点検年月日	点検結果の概要 (注 2)	点検結果をふまえた 今後の取り組み (注 3)
③	その他各学部・学科の設定する点検項目 (注	「25 年度 SA によ	2026 年 2 月 13 日	「大学入門ゼミ a, b」の SA および、受講生から、SA 活動や制度について	改善案について教員に協力依頼するとともに、SA 研修会にも取

	5)	る総括&新入生対象 SA 制度についてのアンケート結果まとめ」	(G 学科会議)	の学生の意見を聴取。制度が学生に役立っているという意見の一方、改善案も出された。	り入れる予定。
--	----	---------------------------------	----------	--	---------

点検項目(4) 外部評価

→各学部自己評価実施委員会が点検主体となる項目はなし。

★注

- 1：各項目の点検に必要な資料・データは、基本的には教務課が提供しますが、その他の資料やデータも用いて構いません。
別添資料の場合は資料番号，オンラインで参照できる資料の場合はそのリンク先を示してください。
- 2：目標値との比較，良好な点や改善した点，悪化した点や改善が求められる点等を記してください。具体的な数値は必ずしも示す必要がありません。
- 3：改善が必要な項目について，改善のために具体的な取り組みを行う計画を定めた場合には，その要点を記してください。「検討中」や「とくになし」も可とします。
- 4：該当する学科科目があれば，その科目名も記入してください。該当する学科科目がない場合には，「点検年月日」の欄に「該当科目なし」と記入してください。
- 5：学部もしくは学科独自に点検項目を設定した場合には，それをこの欄に記入してください。点検項目を2つ以上設定した場合には表の行を追加してそれぞれ異なる行に記入してください。
- 6：趣旨は，履修者数が過大であるような科目がないかどうかを点検するということです。

2025 年度教務自己点検・評価票（国際学部国際観光学科自己評価実施委員会用） 点検項目(1) 学生の学修成果

項目 番号	点検項目	点検用資料・ データ（注1）	点検年月日	点検結果の概要（注2）	点検結果をふまえた 今後の取り組み（注3）
①	各学科の学生の修得単位数の分布	学生の学習成果 ①～④	2026 年 3 月 12 日	過少単位者に相当する 1 年次 20 単位未満が 11.86%、2 年次 50 単位未満が 15.86%である。一年次で一割もいるのは多くなっているものと思われる。	出席不良で途中で受講をあきらめてしまう人に声掛けをするなどの既存の仕組みを活用して注意喚起してゆく。
②	各学科の学生の GPA の分布	学生の学習成果 ①～④	2026 年 3 月 12 日	平均 2.16 1 年次平均 2.16、2 年次平均 2.13 1 年次 2 未満が 39.55%、2 年次 2 未満が 43.9%。おそらく平均値は変化ないのに 2 未満が増加しており、二極化が進んでいるものと思われる。	二極化は今に始まったことではなく、幅が大きくなったならば何らかの対策が必要である。既存の仕組みで対応できるのか、新しい対策が必要なのかを考えてゆく。
③	各学科の学生の学修度の分布	学生の学習成果 ①～④	2026 年 3 月 12 日	観光 DP6 が 39.6 で最も多い、観光 DP12 が 14.7、観光 DP8 が 15.9、観光 DP7 が 17.4%順で低い。	フィールドワークを軸とする本学科に必要な力が座学よりも低くなっている点が懸念される。DP と授業科目との紐づけが問題なのか、学生の得意不得意が反映するのかを含め、現状把握が必要である。
④	各学科の学生の DP 達成度（学生自己評価）の分布	学生の学習成果 ①～④	2026 年 3 月 12 日	学生自己評価回答率が 39.4%で低い。身についている、どちらかといえば身についている。十分身についている。回答が多い。	周知を促す必要がある。

⑤	学科科目のうち習熟度等によるクラス編成を行う科目のクラスごとの成績分布等（注4）	学生学習成果⑤～⑥	2026年3月12日	スタディスキルズaのE評価の割合が最上位クラスAクラスは、9.3%、Bクラスは30.2%、Cクラス7.1%、Dクラス16.7%、スタディスキルズb科目のE評価が、最上位クラスAクラス18.6%、Bクラス31%、Cクラス11.9%、Dクラス33.3% 情報処理入門E評価の割合が最上位クラスAクラス10.2%、Bクラス6.8%、Cクラスが8.2%、情報処理応用科目のE評価の割合が、最上位クラスAクラスは15.5%、Bクラス16.3%、Cクラス25.8% AI・データサイエンス入門1のE評価の割合が最上位クラスAクラス45.4%、Bクラス7%、AI・データサイエンス入門2最上位クラスAが44.7%、Bクラスが11.7%	スタディスキルズについては、前期、後期ともにクラスごとの不合格者が学力と対応しているというよりは、特定のクラスに集まっている。 情報処理では、前期の入門で不合格者の低かったクラスが、後期の応用で高くなる傾向が見いだせる。学生がどこかの段階で息切れしているのだろうか。 AI・データサイエンス入門では、1と2どちらも最上位クラスの不合格率が高い。 いずれの科目でも、能力別のクラス分けに意味があるのかを、現場の先生の声を確認する必要がある。
⑬	その他各学部・学科の設定する点検項目（注5）				

点検項目（2）授業の内容や方法

項目番号	点検項目	点検用資料・データ（注1）	点検年月日	点検結果の概要（注2）	点検結果をふまえた今後の取り組み（注3）
①	学科科目の受講者数（注6）	授業の内容や方法 ①②	2026年3月12日	200名上科目、国際観光学入門、異文化理解入門、コア圏研究a	1年生が170以上いる以上、必修科目である国際観光学入門、

					異文化理解入門で 200 人以上の受講者がいるのはやむを得ない。コリア語圏研究で 200 人を超えるのは前期だけである。クラス運営に問題がないか、担当者の声を聞いてゆく。
⑦	その他各学部・学科の設定する点検項目（注 5）				

点検項目(3) 学生の意見

項目番号	点検項目	点検用資料・データ（注 1）	点検年月日	点検結果の概要（注 2）	点検結果をふまえた今後の取り組み（注 3）
③	その他各学部・学科の設定する点検項目（注 5）				

点検項目(4) 外部評価

→各学部自己評価実施委員会が点検主体となる項目はなし。

★注

- 1：各項目の点検に必要な資料・データは、基本的には教務課が提供しますが、その他の資料やデータも用いて構いません。
別添資料の場合は資料番号、オンラインで参照できる資料の場合はそのリンク先を示してください。
- 2：目標値との比較，良好な点や改善した点，悪化した点や改善が求められる点等を記してください。具体的な数値は必ずしも示す必要がありません。
- 3：改善が必要な項目について，改善のために具体的な取り組みを行う計画を定めた場合には，その要点を記してください。「検討中」や「とくになし」も可とします。
- 4：該当する学科科目があれば，その科目名も記入してください。該当する学科科目がない場合には，「点検年月日」の欄に「該当科目なし」と記入してください。

5：学部もしくは学科独自に点検項目を設定した場合には、それをこの欄に記入してください。点検項目を2つ以上設定した場合には表の行を追加してそれぞれ異なる行に記入してください。

6：趣旨は、履修者数が過大であるような科目がないかどうかを点検するということです。

2024年度教務自己点検・評価票（国際観光学部国際観光学科自己評価実施委員会用） 点検項目(1) 学生の学修成果

項目 番号	点検項目	点検用資料・ データ（注1）	点検年月日	点検結果の概要（注2）	点検結果をふまえた 今後の取り組み（注3）
①	各学科の学生の修得単位数の分布	学生の学習成果 ①～④	2026年3月12日	3年次生で過少単位者にあたる80単位未満が3.67%、4年次生で延長在学が決定する124単位未満が18.7%である。修得単位を充足していない学生の比率が卒業年次で急増している。	延長在学が決定する学生が2割弱の多数におよぶ。就職活動の早期化等の動向を睨み、在学期間の早期から計画的な履修・単位修得を促す。
②	各学科の学生のGPAの分布	学生の学習成果 ①～④	2026年3月12日	3年次の平均値は2.26、2未満の割合は43%である。4年次の平均値は2.24、2未満の割合は54%である。両年次とも平均値に大差ないが、卒業年次で2未満の比率が増える。	卒業年次で2未満の比率が増えるのは、就職活動の多忙化によると想定される。計画的な履修・単位修得を促し、卒業年次以前に修得単位の充足率の向上を図る。
③	各学科の学生の学修度の分布	学生の学習成果 ①～④	2026年3月12日	両年次平均値で、最高値は観光DP2の153.7、最低値は観光DP5の51.8、次いで観光DP4の54.0である。観光学に関する基礎的な知識は習得できているが、ICT等を活用しつつ、それを他者に発信する能力に課題がある。	フィールドワークを軸とする本学部の上位年次でDP4・DP5の学修度に課題があるのは、懸念される。DPと授業科目の紐づけの当否、学生の得意不得意等、要因を検討し、適切な改善策を講じる。
④	各学科の学生のDP達成度（学生自己評価）の分布	学生の学習成果 ①～④	2026年3月12日	自己評価の回答率が39.4%でやや低い。各項目とも「身についている」（「十分」・「どちらかといえば」を含む）とする回答が大多数を占める。	学生に周知を促し、回答率の向上を図る。

⑤	学科科目のうち習熟度等によるクラス編成を行う科目のクラスごとの成績分布等（注４）			特になし	
⑬	その他各学部・学科の設定する点検項目（注５）			特になし	

点検項目（２）授業の内容や方法

項目 番号	点検項目	点検用資料・ データ（注１）	点検年月日	点検結果の概要（注２）	点検結果をふまえた 今後の取り組み（注３）
①	学科科目の受講者数（注６）				
⑦	その他各学部・学科の設定する点検項目（注５）				

点検項目（３）学生の意見

項目 番号	点検項目	点検用資料・ データ（注１）	点検年月日	点検結果の概要（注２）	点検結果をふまえた 今後の取り組み（注３）
③	その他各学部・学科の設定する点検項目（注５）				

点検項目（４）外部評価

→各学部自己評価実施委員会が点検主体となる項目はなし。

★注

1：各項目の点検に必要な資料・データは、基本的には教務課が提供しますが、その他の資料やデータも用いて構いません。

別添資料の場合は資料番号、オンラインで参照できる資料の場合はそのリンク先を示してください。

2：目標値との比較，良好な点や改善した点，悪化した点や改善が求められる点等を記してください。具体的な数値は必ずしも示す必要がありません。

3：改善が必要な項目について，改善のために具体的な取り組みを行う計画を定めた場合には，その要点を記してください。「検討中」や「とくになし」も可とします。

4：該当する学科科目があれば，その科目名も記入してください。該当する学科科目がない場合には，「点検年月日」の欄に「該当科目なし」と記入してください。

5：学部もしくは学科独自に点検項目を設定した場合には，それをこの欄に記入してください。点検項目を2つ以上設定した場合には表の行を追加してそれぞれ異なる行に記入してください。

6：趣旨は，履修者数が過大であるような科目がないかどうかを点検するということです。